

国語・数学科 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)
第6校時 13:55～14:45
対 象 中学部 第3学年1組 5名
学校名 特別支援学校
授業者 〇〇 〇〇
会 場 教室

1 単元名

「^{みつ}三つの^{かたち}形」

2 単元の目標

国語科

- ・物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類を知る。
- ・簡単な説明を聞き、その指示に応じる。
- ・知っている言葉を用いて思いや考えたことを積極的に発言しようとする。

数学科

- ・自分の身近な物の形に興味をもち、丸や三角、四角という名称が分かる。
- ・丸や三角、四角の物を考えながら分けたり、集めたりする。
- ・形に関心をもち、主体的に活動に取り組もうとする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①教科書の挿絵を見てそれはどんな名前で、どんなことをするためのものか答えている。(国語科) ②丸や三角、四角を見てその名称が分かっている。(数学科)	①教員が指示した形を理解して、教科書の挿絵の中から探している。(国語科) ②丸や三角、四角のカードを形ごとに分けている。(数学科)	①自分が教室から探したものについて名前や知っていることを積極的に話そうとしている。(国語科) ②形に興味をもち、積極的に三角や四角を用いた旗作りをしようとしている。(数学科)

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、特別支援学校幼稚部教育要領小学部学習指導要領(平成29年4月告示)第1章第8節

1(4) 中学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部を、当該各教科に相当する小学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部によって、替えることができること。

国 語

2段階

(2) 内容

[知識及び技能]

ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること

[思考力、判断力、表現力等]

A 聞くこと・話すこと

聞くことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。

算 数

2段階

(2) 内容

B 図形

ア 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。

⑦ 身の回りにあるものの形に関心をもち、丸や三角、四角という名称を知ること。

(イ) 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

⑦ 身の回りにあるものの形に関心に向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりする

本単元では、身近なものの形の特徴に着目し、その特徴を丸や四角、三角という言葉で表すことができることに気付くように指導する。物を分けたり集めたりする理由を伝える時に、丸や三角、四角の名称を用いて考えるように指導する。同じ形で色が違うもの、用途が異なって同じ形状であるもの、形のみに着目して分けたり集めたりすることのよさに気付くように指導する。このようにして身近なものの形への興味関心を深め、日常生活や、作業学習で、身の回りのものを整理するときに役立ていくようになることを期待する。

指導にあたっては、名称やその物の意味の理解を確かなものにできるよう、教科書の挿絵を見て気付いたことを伝えあう学習を取り入れる。また、生徒が思考力や判断力を働かせて答えられるような発問を、いくつも用意する。さらに、自立活動4環境の把握(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関わることの指導事項を十分に意識する。

(2) 生徒観

本単元の対象は中学部3年1組(自閉症の学習課程を学ぶクラス)の5名である。どの生徒ももの周りにあるものの形に興味をもって、形の弁別ができ、同じ形を見付けたり、形の違いを見分けたりすることができる。○、△、□の形の見本があれば、複数の丸い形、三角い形、四角の形を丸い仲間、三角の仲間、四角の仲間に分けたり集めたりすることはできているが、丸、三角、四角の名称を聞いて各名称に対応する形を選ぶことはできていない。形の属性を名前で理解できていない段階である。そのため、ものに色や大きさの要素が加わると、形での弁別を求められていても色や大きさなど別の要素に注目して、分けたり集めたりしてしまう状況である。

身の回りにあるものの形に関心をもち、丸、三角、四角という(形という属性の)名称を理解し、色や大きさ、材質など異なる属性から、形のみに着目できるようになることが課題であると考え

また、日常的な言葉でのやり取りに必要な語彙はおおむね習得できているが、例えば、丸い時計と四角い時計の選択では、「まるい」と「しかくい」という音を意味のあるまとまりとして聞き取ることが出来ていない状況を散見する。話の中の「まるい」、「さんかく」、「しかく」といった言葉を含め、言葉には何かを考える時に必要な音のまとまりとして聞き取ったり、伝えたいことを正確に伝えるために必要な言葉として使ったりできるようになることが課題であると考えます。

本単元の対象生徒は、自閉症であり知的障害である生徒であるため、概念を的確に身に付けるために、興味・関心のある事柄や具体物、生活上の場面を取り上げ、視覚的に把握ができるようにして、言葉と行動の対応関係をあらゆる場面で繰り返していくことが必要な生徒である。

(3) 教材観

本単元では、文部科学省検定教科書 さんすう☆☆(2) P12 から P24 の内容を取り扱う。当該箇所は本単元の内容を学習する上で適切な教材である。

①このかたちなに？

この学習課題では、さんすう☆☆(2)のP14、P16、P18にある図形を電子黒板で生徒に示し、丸や三角、四角という形の名称を理解することをねらいとしている。また、さんすう☆☆(2)のP12、P13に示されているような教材を用いて学習する。これは形の種類を学ぶことに適していると考えます。

②このえのかたちとなまえはなに？

ここではさんすう☆☆(2)のP15、P17、P19に載っている身近な物について、その形を答えることを指導する。身近な物の形に気が付くことをねらいとしている。そしてその絵について名前や何をする時に使う物か発問をすることで、生徒から主体的な発言を促し、対話的に学べるようにして多くの言葉に触れるように指導するのに適していると考えます。

③えをみてかたちをさがしてみよう

さんすう☆☆(2)のP20、P21の挿絵を教材として用いるが、これは全体的なものの中から、部分的な形を探すということをねらいとしている。自分で絵の中から形を見付けることや、教員が指示した形を絵の中から探すことに適していると考えます。

④はたをつくろう

さんすう☆☆(2)のP22にある形に自由に色を塗り、旗を作成することを指導する。生徒たちが形に関心を持ち、積極的に形の学習をすることに適していると考えます。

⑤「さがしてみよう」

さんすう☆☆(2)のP15、P17、P19に載っている身近な物を見て、それを参考に教室内にあるいろいろな物の形を探す学習をする。身近な物の形に関心を向け、それを集めたりわけたりすることを学ぶことに適していると考えます。また、教室内で見つけた物について、知っていることを積極的に発言することも指導する。

⑥「わけてみよう」

さんすう☆☆(2)のP24、P25のような、丸や三角、四角を友達と一緒に分けたり、集めたりする学習活動を行う。これは分け方や集め方を判断する学習に適していると考えます。

5 年間指導計画における位置付け

中学部3年は1単位時間が50分間の「国語・数学」を週3時間設定している。国語・数学における年間指導計画では、目標を以下の通りに設定している。

- (1) 話す、聞く、書くなどの力を伸ばすことができる。
- (2) 10までの数概念を理解することができる。
- (3) 大きさや長さなどの概念が理解できる。
- (4) 生活に必要な言語能力、数的処理能力を養う。

年間の予定

学期	単元名	主な単元の目標
1 学期	<p>「くらべてみよう」 (全 10 時間)</p> <p>「まる、さんかく、しかく」 (全 6 時間)</p> <p>「かぞえてみよう」 (全 10 時間)</p> <p>「5 にんのおんがくか」 (全 12 時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長さ、重さ、高さなどが分かり、基準に沿って比べる。 ・「ながいへび」などの平仮名を読んで発声する。 ・丸や三角、四角の形を理解して分けたり、集めたりする。 ・教科書の挿絵を見てその名前とどんな時に使うかなどということ言う。 ・数字を順番に読む。 ・二つの数の大小を正しく比較する。 ・セリフのある劇をする中で言葉による表現に親しむ。 ・5 が二つの数に分けられることに気付く。
2 学期	<p>「よんでかいてみよう」 (全 13 時間)</p> <p>「もののしゅるい」 (全 10 時間)</p> <p>「ぼーるなげ」 (全 6 時間)</p> <p>「どうぶつのぼうし」 (全 12 時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名で書かれた昔話を読む。 ・昔話の一部を模写する。 ・自分が好きな物を思い浮かべて、それらの名称をカードにできるだけたくさん書く。 ・様々な物の名前が書かれたカードを色や形や大きさ、用途といった基準で分ける。 ・友達に対してボールを渡すときに「どうぞ」と言ったり、「ありがとう」と答えたりする。 ・ボールがかごに入ったら表に○を付けて、最終的に誰が一番多く入れられたか理解する。 ・動物に帽子を一つずつ配り、帽子が多いか動物が多いのか判断する。 ・役割を演じる中で積極的に話をする。
3 学期	「じゅんばんにならべてみよ	・具体物を並べて、何番目にはどんな物があるか答

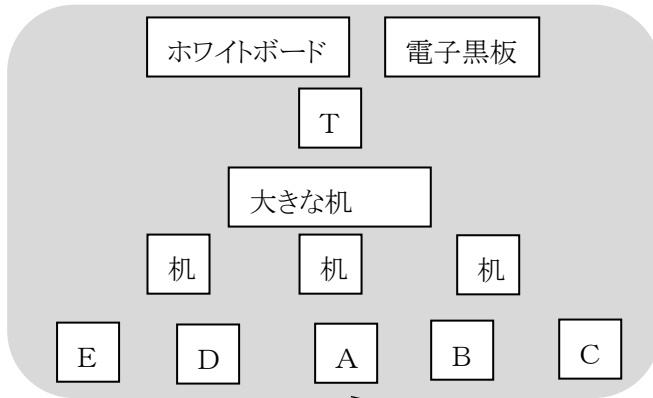
う」 (全8時間)	える。 ・プリントに何番目にはどんなものがあつたかひらがなで書く。 ・種類や用途に応じて絵カードを分ける。 ・絵カードを見てそれはどんな時に使うかということ言葉を説明する。 ・3年生であつたできごとで印象に残っていることを発表する。 ・発表した内容を原稿用紙に書く。
「なかまのことば」 (全6時間)	
「つたえてみよう」 (全10時間)	

6 単元の指導計画と評価計画 (全6時間)

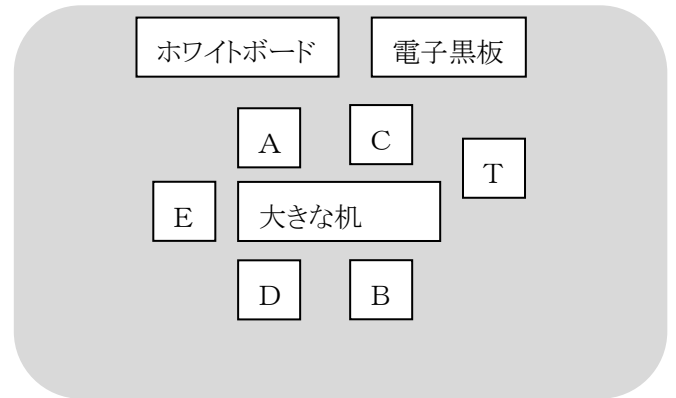
時間	目標	学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)
第1時 ～ 第2時	<ul style="list-style-type: none"> 丸や三角、四角の名前を知る。 身近な物の形のなまえが分かる。 物の名前などいろいろな言葉の種類に触れる。 	<p>「このかたちなに？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に映った形の名前を答える。 一人一つ型はめ教材を配り、全員で声を合わせて「これは丸」などと言いながら型はめをする。 <p>「このえのかたちとなまえはなに？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の挿絵(さんすう☆☆2のP15、P17、P19)を見てその形を答える。 教科書の挿絵(同上)を見てその名前や何をする時に使う物かなどの質問に答える。 	<p>アー② (発言)</p> <p>アー① (発言)</p>
第3時 ～ 第4時	<ul style="list-style-type: none"> 教員が指示したことが分かり、その通りの形を探す。 形に関心を持ち、積極的に旗作りをする。 	<p>「えをみてかたちをさがしてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の挿絵(さんすう☆☆2のP20、P21)を見て「緑色の四角はどこにあるかな？」などの問い掛けに、言葉や指差しで答える。 教科書の挿絵(同上)の中から丸や三角、四角を見つけて、言葉で伝えたり指さしたりする。 <p>「はたをつくろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書(同上)のP22の三角や四角が組み合わせて作られている色が塗られていない旗の教材を使い、その三角や四角の枠の中に自分の好きな色を塗り、旗をつくる。 	<p>イー① (行動)</p> <p>ウー② (行動)</p>
第5時 ～ 第6時 本時は 第5時	<ul style="list-style-type: none"> 丸や三角、四角の物を探し、そのもの名前や知っていることについて話す。 丸や三角、四角のカードを正しく分ける。 	<p>「さがしてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室の中にある丸や三角、四角の物を探し、そのものについて知っていることを話す。 集めたものを丸や三角、四角の形ごとに分ける。 <p>「わけてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 机の上に置いてある形カードを友達と確認しながら箱に分ける。 	<p>ウー① (発言)</p> <p>イー② (行動)</p>

7 配置図

展開1



展開2



特に注目を促したいので中央に座るようにする。

8 指導に当たって

(1) 指導形態の工夫

- ・生徒の机の上に物を置くときは必ず同じ場所に同じものを置くように徹底する。本單元だけでなく他の單元でも物を置く場所のルールは同じにして、一定の環境で効率よく学べるようにする。
- ・必要に応じて電子黒板を使い、生徒が注目をしやすいようにする。特に生徒全員に教科書の挿絵を見せたい場面では、積極的に用いるようにする。
- ・單元の中で、教員の話聞く形態の時間、みんなの前で発表をする形態の時間、一人でやってみる形態の時間、みんなで体験的に学ぶ形態の時間など変化を付けることで学びが定着できるようにする。

(2) 指導方法の工夫

- ・生徒が主体的に学べるように分かりやすい教示の提示の仕方をする。例えば丸や三角、四角の形を分ける場面では、それぞれの形をどこに集めればよいか視覚的に明確であるようにしておく。そうすることで、教員の直接的な言葉の指示がなくても、主体的に学習することができるようにする。
- ・対話的な学びが生まれるように発問を工夫して、生徒の言語表出を促す。一つの物について、形だけでなく、その色や種類、どうする時に使う物かなどたくさんの側面から考えられるような発問をする。
- ・深い学びが実現できるように、教員が説明したり、生徒が机に向かってしたりする知識だけに関する学習だけでなく、日常生活の場面（教室）の中から丸や三角、四角という形を探すという体験的な活動を設定して、形への理解や関心を深めていく。

(3) 班テーマに関する指導の工夫

- ・K-ABC や太田 Stage などの発達検査の結果を参考にして、それぞれの生徒がどれくらいのことが「がんばればできる」のか判断をする。
- ・生徒の認知的特徴に応じた言葉かけや働きかけをする。本単元の対象生徒については、聴覚的な認知が優位な生徒が2名と、視覚的な認知が優位な生徒が3名なのでそれぞれの特性に応じた働きかけをして、「がんばってやりたい」という生徒の気持ちを引き出す。

- ・「がんばってやってみよう」という集団の雰囲気をつくるために、生徒が間違っただけの発言をして、それを否定せずに受け入れ、その発言を広げるような発問を改めてする。そうすることで、学習に対して肯定感をもち「がんばってやってみよう」と生徒が思えるようにしていく。

9 本時（6時間扱いの第5時間目）

（1）本時の目標

- ・教室の中から丸や三角、四角の物を探し、その名前や形や種類や色などを言う。
- ・丸や三角、四角のカードをそれぞれの箱に正しく分ける。

（2）本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	○予定の確認 ・授業の流れと目標を確認する。 ○前回の復習 ・前回の授業の「えのなかからかたちをさがしてみよう」をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・端的に分かりやすく伝える。 ・電子黒板に教科書の挿絵（さんすう☆☆2のP20、P21）を映す。 ・教科書の挿絵に注目を促し、丸や三角、四角を探してみるように生徒に発問する。 ・挙手した生徒の中の何人かに発表をさせる。生徒の到達度により、電子黒板を指さすことで答える、口頭でどこに丸や三角、四角があるか答えるなど、発表のやり方を変える。 ・自分で見つけるのが難しい生徒については「旗はどんな形かな」などと手がかりを与える。 	
展開① 15分	○「さがしてみよう」 ・教室の中から丸や三角、四角の物を探す。 ・探したものについて知っていることを答える。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の中から丸や三角、四角の物を探して大きなテーブルに置くように言う。 ・生徒が持ってきた物はどんな形でどんな名前の物か発表させる。 ・形の名前の発語が難しい生徒には、形カードを選択することで発表ができるようにする。 ・さらにその物はどういうときに使うか、色は何か、どんな種類の物かななどを全体に発問して答えさせる。 ・大きなテーブルに、丸や三角、四角の物が10個集まったら、それらをそれぞれの形を置くための小さいテーブルに分けるように言う。 	ウー① (発言)
展開② 15分	○「わけてみよう」 ・大きなテーブルに置いてある丸や三角、四角のカードを所定の場所に分ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・自席から大きなテーブルの前まで移動するように促す。 ・机の上に丸や三角、四角のカードがあることを確認する。 ・順番に好きな形のカードを取り、それぞれの形を分けるための箱に入れていくように指示する。 ・順番が分かりやすいように、机の上に順番表を置いておくようにする。 ・できたら「できました」と必ず教員に報告するようにする。 	イー② (行動)

まとめ 10分	○振り返り ・展開1で自分はどんな形のどんな名前の物を教室から探したか思い出して答える。	・最初にどんな形について学んでいるか確認するための発問をする。 ・本時では自分がどんな形のどんな物を探せたか答えるように促す。 ・生徒によっては教室で見つけた物がどんな特性をもっているか知っていることを話す。 ・発語が難しい生徒については、教員が実物を見せて、どちらを探せたか選択できるようにする。	
------------	---	--	--

(3) 板書計画

電子黒板 (導入のみ)



ホワイトボード

みつ かたち 三つの形 ○ △ □	もくひょう
1. ふくしゅう	きょうしつからかたちをさがそう。
2. さがしてみよう	かたちをわけよう。
3. わけてみよう	
4. まとめ	

(4) 授業観察の視点

- ・効率よく学べるような学習環境であったか。
- ・電子黒板などの ICT 機器は指導に効果的に使われていたか。
- ・話を聞く時間、発表をする時間、一人でやってみる時間、体験的に学ぶ時間など指導の形態に変化をつけたが、生徒の学びにいかされていたか。
- ・視覚的な支援教材は、生徒の主体的な学びを引き出しうるものであったか。
- ・対話的な学びができるような発問ができていたか。
- ・生徒の深い学びがあるような活動内容であったか。
- ・本単元は対象生徒が「がんばればできる」くらいの適切な学習内容であったか。